

		1号機	2号機	3号機	4号機
燃料取り出し開始		2023年度目途	2023年度目途	2018年度中頃	2013年11月
使用済燃料		392体	615体	566体	1535体
電気出力(万kW)		46.0	78.4	78.4	78.4
原子炉建屋	平面形状	約42m×約42m(1階) 約42m×約31m(ホﾟレティンｸﾞﾌｯﾌﾟ)	約46m×約56m(1階) 約46m×34m(ホﾟレティンｸﾞﾌｯﾌﾟ)	同左	同左
	構造(ホﾟレティンｸﾞﾌｯﾌﾟ) 屋根 柱・梁・壁	屋根スラブ:鉄筋コンクリート造 屋根トラス:鉄骨造 鉄骨造+パネル	同左 鉄筋コンクリート造	同左	同左
状況写真	現状	 •2018年1月 北側ガレキ撤去着手	 •2018年4月 西側開口作業着手	 •2018年2月 ドーム屋根設置完了 •現在、燃料取扱設備等の試運転実施中	 •2013年11月 燃料取り出し用カバー設置完了 •2014年12月 燃料取り出し完了
	震災直後の原子炉建屋上部の状況(ガレキの状況)				
	屋根	•北側の屋根スラブは、ホﾟレティンｸﾞﾌｯﾌﾟ(以下、オペフロ)上に、南側は天井クレーン(以下、天クレ)上に落下。屋根トラスはつながった状態	•水素爆発は起こっておらず、建屋に損傷は無い	•屋根スラブは砕けオペフロ上に落下 •屋根トラスは変形し、オペフロ上に落下	•屋根スラブは砕けオペフロ上に落下 •屋根トラスは変形しつながった状態
	壁	•壁パネルが吹き飛んだ状態		•吹き飛んだ状態	•一部吹き飛んだ状態
設備	•使用済燃料プール(以下、SFP)上に天クレ、燃料取扱機(以下、FHM)が存在 •天クレは落下していない(一部変形、トロリが傾斜) •FHMは落下していない(脚部が一部変形)	•天クレはオペフロ上に落下 •FHMはSFP内に落下		•天クレは落下していない(レールから外れてない) •FHMは落下していない	
その他	•ウェルプラグがずれ浮いた状態	—		—	

		1号機	2号機	3号機	4号機
ガレキ撤去計画	実施時期	2018年1月～	2018年4月～	2011年9月～2013年10月	2011年11月～2012年7月
	作業方法	遠隔	遠隔（一部有人）	遠隔	有人
	ガレキ撤去工法	<ul style="list-style-type: none"> オペフロ線量が高いため、大型クレーンに吊り下げた装置を用い、遠隔操作により撤去  <ul style="list-style-type: none"> 3号機ダスト飛散事象を踏まえ、ダスト飛散の少ない工法を採用 崩落した屋根を、上から順に撤去 砕けた屋根スラブは、吸引装置で吸引 デッキプレート等は、ペンチを用い、把持し撤去 鉄骨はカッター等で切断し撤去   吸引装置 ペンチ	<p>水素爆発が起こっておらず、現在燃料取り出しへ向けての準備として、原子炉建屋西側外壁開口工事を実施中</p>  工事箇所	 重機用構台 残存柱等 SFP保護	<ul style="list-style-type: none"> オペフロ線量が高いため、大型クレーンに吊り下げた装置および解体重機を用い、遠隔操作により撤去    PCVヘッド
	ガレキ撤去計画	<ul style="list-style-type: none"> 南側のガレキ撤去に向け、遠隔でSFP保護等を計画。（SFP上にFHM等があり、オペフロ側面からの作業となるため、3号機より難易度が高い） 	 壁開口作業イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ガレキはオペフロ上に堆積しており、油圧フォークやグラブバケット等で一度に大量に集積し撤去 鉄骨はベンチ・カッター等を用いて切断し撤去 建屋周囲に解体重機用構台を設置し残存柱等を解体・撤去   油圧ベンチ 作業状況（北西側）	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔でSFP周囲のガレキを撤去し、SFP保護を実施   油圧フォーク グラブバケット
飛散抑制対策	<ul style="list-style-type: none"> 3号機ダスト飛散事象を踏まえ対策強化 オペフロ全面に飛散防止剤（1/10希釈）を1回/月の頻度で散布 作業後に撤去範囲に対し飛散防止剤（1/10希釈）を散布 防風フェンスを設置 万一のダスト飛散に備え、散水設備設置 	<ul style="list-style-type: none"> 3号機ダスト飛散事象を踏まえ、西側外壁開口工事でも以下の対策を実施 作業前と後に、作業範囲に対し飛散防止剤（1/10希釈）を散布 	<ul style="list-style-type: none"> 作業前に作業範囲に対し、飛散防止剤（1/100希釈）を散布 <p style="text-align: center;">↓ ダスト飛散事象発生（2013年8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業前と後に、作業範囲に対し飛散防止剤（1/10希釈）を散布 	<ul style="list-style-type: none"> 残存した壁・柱に対し、飛散防止剤を、前日に原液で、作業前に1/10希釈で散布 オペフロ上のガレキに対しては散布なし 	
ダストの監視体制	<ul style="list-style-type: none"> オペフロ周囲（6点）および構内のダストモニタで24時間監視 	<ul style="list-style-type: none"> 作業エリア周囲（4点）および構内のダストモニタで24時間監視 	<ul style="list-style-type: none"> ダスト飛散事象発生時、オペフロ周囲での監視なし 事象発生後、オペフロ周囲（4点）および構内のダストモニタで24時間監視 	<ul style="list-style-type: none"> オペフロ周囲での監視なし 	